

平成28年度東京都教育委員会社会教育指導者研修「学校教育支援施策研修」(第1・2回)【報告】 「オリンピック・パラリンピック教育」支援の可能性

～『東京都のオリンピック・パラリンピック教育』の具体化から学ぶ～

平成28年度から、都内全公立学校において「オリンピック・パラリンピック教育」が開始されています。学校教育支援の関係者を対象として『東京都のオリンピック・パラリンピック教育』の具体化から学ぶ」を、「取組に学ぶ」、「支援する取組に学ぶ」と2回にわけて開催しました。

■対象

- ◆東京都及び区市町村教育委員会職員（生涯学習・社会教育所管課及び指導室等）等
- ◆区市町村教育委員会学校支援ボランティア推進協議会事業等学校支援所管部署担当者
- ◆学校支援ボランティア推進協議会事業におけるコーディネーター
（学校支援コーディネーター、地域コーディネーター等「学校支援ボランティア推進協議会事業」における小・中学校コーディネーター）
- ◆地域教育推進ネットワーク東京都協議会会員団体

第1回 「オリンピック・パラリンピック教育」の取組に学ぶ

第1回では、『東京都のオリンピック・パラリンピック教育』の取組に学ぶ」と題して、東京都教育委員会が進める「オリンピック・パラリンピック教育」の現状、小学校・中学校における取組事例の報告を行い、「オリンピック・パラリンピック教育」の目的や意義について学びました。

■開催日時、開催場所

平成29年2月14日（火） 午後2時から4時30分まで
TKP 新宿カンファレンスセンター ホール4A

■参加者

行政関係者 9名 コーディネーター31名（小学校24名、中学校7名）
地域教育推進ネットワーク東京都協議会会員団体 18名 計58人

■プログラム内容

- 講義 『東京都のオリンピック・パラリンピック教育』を通じて目指すもの
荒川元邦（東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育推進担当課長）

オリンピック・パラリンピック教育の意義や目的、重点的に育成する5つの資質等について解説しました。また、オリンピック・パラリンピック教育を推進するため、各学校に対して東京都が行っている「4つのプロジェクト」や公式サイト、学習読本・映像教材等のツールなど、取組の全体像について紹介しました。



- 事例報告 平成28年度オリンピック・パラリンピック教育重点校における取組

28年度に100校が指定されているオリンピック・パラリンピック教育重点校の中から、重点的な取組内容として「ボランティアマインドの醸成」を掲げる小平市立小平第三小学校、「障害者理解の促進」を掲げる中央区立晴海中学校に、それぞれ実際の取組について事例報告をいただきました。

事例報告① 「ボランティアマインドの醸成」

屋代一明（小平市立小平第三小学校主幹教諭）
秋本 理（小平市立小平第三小学校教諭）

あいさつ運動や給食の配膳、片づけなど、日々の学校生活をとらえなおし、児童が自主的に取り組む活動が広がっている様子を、屋代主幹教諭から報告いただきました。また、4年担任の秋本教諭からは、「教育支援プログラム集」を活用し、総合的な学習の時間において「体験授業『バリアフリーアイデアを皆で考えよう!』」を、NPOとの連携で具体化した実践を報告いただきました。



事例報告② 障害者理解の促進

平野雅仁（中央区立晴海中学校副校長）
上田純一（中央区立晴海中学校主任教諭）

晴海中学校が掲げる教育理念「共生」を具体化するための「オリンピック・パラリンピック教育」の位置づけの全体像を平野副校長が解説しました。また、上田主任教諭からは、「共生」の理念を、前年度からの継続的な取組、そしてリオのオリンピック・パラリンピックを軸とした、文化祭での劇、道徳や各教科、リリオ、パラリンピックの講演、生徒会活動等全体を関連させながら、「障害者理解の促進」の具体化を図った実践を紹介していただきました。



(参加者アンケート感想から抜粋)

- ・講義や事例を通してオリンピック・パラリンピック教育の目的や必要性を理解することができた。私の学校でも先生と相談してできる事をやっていきたいと感じた。(コーディネーター)
- ・オリンピック・パラリンピックの目標と学校教育目標の関係が相互に関連されている事が再確認できた。(コーディネーター)
- ・東京都のオリンピック・パラリンピック教育が、体系的に理解できた。(企業)

第2回 「オリンピック・パラリンピック教育」を支援する取組に学ぶ

第2回では、『「オリンピック・パラリンピック教育」を支援する取組に学ぶ』として、企業とNPOの2つの取組事例から学ぶ機会としました。

■開催日時、開催場所

平成29年3月14日(火) 午後1時30分から4時30分まで
中野サンプラザ コスモルーム

■参加者

行政関係者 6名 コーディネーター25名(小学校22名、中学校3名)
地域教育推進ネットワーク東京都協議会会員団体 56名 計87人

■プログラム内容

□事例報告

「オリンピック・パラリンピック教育」をテーマとした中学校・高校向け教材を提供している企業と、パラリンピック競技団体の立場から小学校・中学校へ体験型ワークショップを提供しているNPOから、プログラムを開発した目的や、学校に提供してきたこれまでのプロセスについて報告をいただきました。

事例報告① ワールドワイドカリビックパートナーの立場から「カリビックとパラリビックを題材とした教育プログラム」を制作し提供する中で見てきたこと

乾とし子(パナソニック株式会社ブランドコミュニケーション本部 CSR・社会文化部 CSR・企画推進課 課長)

「オリンピックとパラリンピックを題材とした教育プログラム」を開発した経緯、企業として掲げる理念の実現としての教育支援活動の全容について、また動画でプログラムを活用している学校関係者のコメントなども紹介していただきました。

最も生徒を理解している先生方に、本当に生かしてもらえるプログラムの開発、提供にはなにが必要なのか、取組の紹介を通じて、問題提起をしていただきました。



事例報告② パラリビック競技団体の立場からブラインドサッカーを用いていかに体験型ワークショップ「スポ育」を開発し学校に届けてきたのか

井口健司(特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会 OPEX 部部長 兼 大会・地域連携事業部事業部長)

競技団体としてのミッションを背景に、「ブラインドサッカー」を用いた体験型ワークショップを開発するに至ったプロセスを、参加者への問いかけや「スポ育」のミニワークを織り交ぜながら解説していただきました。

なかでも学校が抱える課題に耳を傾けて、大きくプログラム内容を見直した経緯など、学校を支援する側の基本的なスタンスに関わるポイントに、気づかせていただきました。



それぞれの報告の後には、助言者の高秀章子(一般社団法人まなびの天才畑代表理事)、土屋由紀(NPO 法人世田谷まなびばネット副理事長)と報告者が、学校にプログラムを届ける中での成果や課題についてやり取りを行いました。

□グループワーク

事例報告を受けて、テーブル毎に、感想や気づきについてシェアをしました。「企業間の連携も必要だと感じた。このような交流は大変参考になる。(参加企業)」



□展示資料

「オリンピック・パラリンピック学習読本 小学校編・中学校編・高等学校編」、DVD「オリンピック・パラリンピック教育映像教材」・「広げよう! 障害者スポーツ」、「教育支援プログラム集」を展示しました。



(参加者アンケート感想から抜粋)

- ・今後も、様々な形でのベタープラクティスが生まれてくると思うので、ぜひ今後も、このような場でシェア&ディスカッションすることができればと思った。(カリビック・パラリビックパートナー-企業)
- ・事例報告が、大変良かった。(コーディネーター)
- ・今回はオリパラ教育の内容でなく、支援の側の事例、大変参考になった。(行政担当者)

参考) 関連サイト

[「東京都オリンピック・パラリンピック教育」公式サイト](#)

東京都オリンピック・パラリンピック サイトです。目標や内容について情報提供をしています。

[「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針の策定について\(平成28年1月14日\)](#)

東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育を、都内全ての公立学校で展開していくための実施方針です。

[パナソニック オリンピックとパラリンピックを題材とした教育プログラム](#)

パナソニック株式会社による教育プログラム紹介のサイトです。

[日本ブラインドサッカー協会 “スポ育” プロジェクト](#)

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会による教育プログラム紹介のサイトです。